

## 『新年のご挨拶』

Iasa 日本支部代表理事の塩田でございます。

去年は格別の御厚情を賜り、厚く御礼を申し上げます。

Iasa 日本支部は2年前の発足以来、日本支部独自の様々な活動の枠組みの立ち上げに邁進して参りました。

これまで私ども主催の様々なイベントにご出席いただき、併せてご声援をいただきました皆様に、あらためまして心より感謝を申し上げます。

また、Iasa の活動意義に多大なご理解を賜り日本支部を大きくお支えいただきました法人会員各社様に対しまして、心より御礼申し上げます。

昨年10月21日には『Iasa 日本支部アニュアルカンファレンス』も開催し、“EA2.0”と題しまして新しいエンタープライズ・アーキテクチャへの取り組みのあり方をご紹介いたしましたとともに、ビジネス視点、データ視点、テクノロジー視点といった様々な視点からの最新のアーキテクチャのテーマについて、各有識者の方々からのご講演をいただきました。

今後もより充実したカンファレンスに高められますよう、皆様の忌憚のないご意見を賜れましたら幸いに存じます。

2016年におきましては次のような活動を予定しております。

この1年で準備を進めて参りました新サービスのご提供を開始し、活動の幅がさらに広がる年になると確信いたしております。

### 1. ITABoK の普及と展開

- ITABoK V2(IT Architecture Body of Knowledge)の日本語版の提供  
(法人会員様には無償で提供されます。但し、利用に関する規定在り)
  - 2016年3月 β版提供予定

- 2016年5月 リリース予定
  - ITABoKの日本語版を用いた法人会員様向け研究会及びその他研究会活動の提供
  - ITABoKの日本語版テキストを使用した講義・トレーニングの提供
2. Iasa 日本支部による新たな活動
- 従来のイベントやセミナーに加え、合宿形式による勉強会及び会員間の交流
    - 詳細は、現在企画中
  - アーキテクチャ用語標準化活動
    - 法人会員を中心とした研究部会の推進
  - Iasa Global 本部 Web サイトの日本語自動翻訳機能の提供
    - 2016年1月よりβ版として公開開始。翻訳対象を段階的に拡大。
3. イベント関連
- IIBA®日本支部とC3カンファレンス（6月/10-11日）の共催
    - Iasa から2講演を提供
  - DAMA 日本支部とアーキテクチャカンファレンスの共催
    - John Zachman 氏の招聘を企画（9-10月の実施を予定）

従来の EA の枠組みにとどまらず、アーキテクチャの重要性はあらゆるところで高まってきたと感じます。本年も引き続き変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様及び各社様のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

## ITABoK V2 概要序文 (抜粋ドラフト版)

Iasa 日本支部では 2015 年 9 月に大幅に刷新された ITABoK Version2 (V2)の日本語版を準備中です。ここでは、既にグローバルに公開されている英語版を基に皆様に ITABoK V2 の概要を簡単にご紹介します。

(ソース：<http://iasaglobal.org/itabok/>) 以下、序文の翻訳抜粋ドラフト版になります。

### ITABoK: 世界初の IT アーキテクトのための知識体系 永遠に無償の実践標準と知識体系

IT アーキテクトのための知識体系 (ITABoK) は世界最大の IT アーキテクチャの専門団体である Iasa の個人と法人会員の経験から発展させた、IT アーキテクチャのベスト・プラクティス、スキル、知識の無償のパブリック・アーカイブです。(Iasa 日本支部注：WEB 掲載の英語版 ITABoK 利用の場合は無償)

ITABoK は専門職のキャリア開発、雇用の為の慣行、そして、既にある、もしくは、成長中の組織への IT アーキテクトの組織への取込みのために業界標準を設定する際の個人や組織が必要とするツールとリソースを提供します。

#### ITABoK V2 の主な内容

##### ✓ IT アーキテクトとしての専門職を定義

IT アーキテクトとは何でしょうか？ 私達 Iasa は国際的な認定資格によって裏打ちされた、専門職としての IT アーキテクトのスキルとコンピテンシーの業界参照モデルを提供しています。

##### ✓ IT アーキテクト活用とエンゲージメント

IT アーキテクトは組織内でどのように活用されるのでしょうか？ また、クライアントや雇用主と IT アーキテクト間の相互の交流モデルとはどのようなものなのでしょうか？

##### ✓ キャリア・パス

専門領域とキャリア上の達成指標を含めた、アーキテクトの標準的なキャリア・パスを紹介します。

#### 概要：

IT アーキテクチャの知識体系 (ITABoK) は個人と法人会員の経験と実践によって発展してきました。

参照文献、知識ベース、専門的ケイパビリティの目録であることに加え、ITABoK は他のスタンダード、ロール、実践、ライフサイクルに大きな変更を施すことなく組織内にアーキテクチャの実践を導入する上で必要不可欠なものとなるように作成されています。アーキテクチャの実践はビジネスと技術的戦略の両方に高いレベルの価値をもたらし、その価値を組織への貢献として評価することができます。

アーキテクチャは極めて小規模のビジネスを初め、世界最大規模のビジネスにとって適切かつ不可欠なもので、これには、非営利団体・政府・防衛機関も含まれます。

(中略)

ITABoK にはアーキテクト専門職の全専門領域に加え、2 次的な専門領域、そして、キャリア・レベルが含まれています。

ITABoK の名称にはインフォメーション・テクノロジー(IT)という用語が含まれるものの、その内容はビジネス、エンタープライズ、ソリューション、ソフトウェア、情報、そしてインフラストラクチャ・アーキテクトと彼らの起源を念頭に置いて記述されました。

## アーキテクチャとは？

Iasa で定義するアーキテクチャとは、ビジネス、組織、クライアントがテクノロジー戦略の適用を通じて得られる利益を獲得するための実践です。それは価値のあるテクノロジー戦略のデザインとそれを実現するアートでありサイエンスです。

BoK (知識体系) では、これをビジネス・テクノロジー戦略と表現しており、アーキテクチャ・スキルの 5 つの柱の最も重要な柱と位置付けています。

これを表現するために Iasa が使用する他の言葉は、イノベーション、概念化 (アイディエーション)、そして、価値のマネジメントです。ITABoK は、本質的にはクライアントや雇用主が期待する結果を生み出すための新たなテクノロジーの適用を常に模索できる専門家や専門家集団の育成の方法を解説しています。

ITABoK は特定の種類のアーキテクトのためのある基準点 (レフェレンス・ポイント) を提供しますが、役職上の肩書きを持つ、または持たない全てのアーキテクトの定義には必ずしも適合しない場合があります。しかし、ITABoK は実践者が彼らのキャリアを通して以下の全ての項目、または多くを達成するようなアーキテクトの専門職の育成に焦点を置いています：

- > テクニカル・スキルとビジネス・スキルの深さを維持する
- > ビジネスとテクニカルスタッフの両方と共によく仕事をする事ができる
- > テクノロジー主導のイノベーションに基づいて、自身や他者のビジネス・ケースを開発する
- > 一般的には増大する複雑なレベルで、それらのビジネス・ケースにおいてプロジェクトを達成する能力を維持する
- > 何よりも結果に基づき、より成功裏にビジネス・プロジェクトを実現する
- > ビジネス・テクノロジーの結果における再現性の特定に専念する
- > サイエントリストであると同時にアーティストでもある

(次ページから目次が続く)

# ITABoK V2 目次 (参考用、暫定版)

## 1. 序文

- 1.1. 何故 ITABoK なのか？
- 1.1.2 IT アーキテクチャとは？
- 1.1.3 アーキテクチャの価値
- 1.1.4 用語集
- 1.1.5 パースペクティブベースなアーキテクチャ方法論
- 1.1.6 行動規範
- 1.1.7 ロードマップ
- 1.1.8 ITABoK コントリビューター
- 1.2 フィードバックの提供方法

## 2. ITABoK セクション 1- ケイバビリティ・ガイドブック

### 2.1 ケイバビリティの分類と記述

- 2.1. Iasa の 5 つの柱
  - 2.1.1 ビジネス・テクノロジー戦略(BTS)の柱
    - 2.1.1.1 ビジネスの基本
    - 2.1.1.2 戦略の合理化と
    - 2.1.1.3 業界分析
    - 2.1.1.4 ビジネス評価
    - 2.1.1.5 投資の優先順位付けとプランニング
    - 2.1.1.6 要分析と制約分析
    - 2.1.1.7 コンプライアンス
    - 2.1.1.8 アーキテクチャ方法論とフレームワーク
    - 2.1.1.9 リスクマネジメント
  - 2.1.2 ヒューマン・ダイナミクスの柱
    - 2.1.2.1 文化のマネジメント
    - 2.1.2.2 顧客との関係
    - 2.1.2.3 リーダーシップとマネジメント
    - 2.1.2.4 個人間の相互作用
    - 2.1.2.5 コラボレーションとネゴシエーション
    - 2.1.2.6 プレゼンテーション・スキル
    - 2.1.2.7 ライティング・スキル
  - 2.1.3 デザイン・スキルの柱

- 2.1.3.1 アーキテクチャの記述
- 2.1.3.2 要求モデリング
- 2.1.3.3 デザイン手法とプロセス
- 2.1.3.4 デザインの分析とテスト
- 2.1.3.5 デザインのパターンとスタイル
- 2.1.3.6 ライフサイクルに渡るトレーサビリティ
- 2.1.3.7 ビューとビュー・ポイント
- 2.1.3.8 全体システムのデザイン
- 2.1.4 IT 環境の柱
  - 2.1.4.1 テクニカル・プロジェクト・マネジメント
  - 2.1.4.2 資産管理
  - 2.1.4.3 変更管理
  - 2.1.4.4 インフラストラクチャ
  - 2.1.4.5 アプリケーション開発
  - 2.1.4.6 IT ガバナンス
  - 2.1.4.7 テストの手法、ツールとテクニック
  - 2.1.4.8 ナレッジ・マネジメント
  - 2.1.4.9 意思決定支援
  - 2.1.4.10 プラットフォームとフレームワーク
- 2.1.5 品質属性の柱
  - 2.1.5.1 品質属性の調整と最適化
  - 2.1.5.2 管理の容易性、メンテナンス性、サポート性、拡張性、柔軟性
  - 2.1.5.3 モニタリングと管理
  - 2.1.5.4 セキュリティ
  - 2.1.5.5 ユーザビリティ、ローカライゼーション、アクセシビリティ、パーソナライズ/カスタマイズ性
  - 2.1.5.6 パッケージング、提供、ポスト・デプロイメント

### 2.2 専門領域

#### 2.2.1 ビジネス・アーキテクチャの専門領域

- 2.2.1.1 ビジネス・マネジメント
- 2.2.1.2 ビジネス戦略
- 2.2.1.3 ポートフォリオとプログラム・マネジメント

- 2.2.1.4 財務的手法
- 2.2.1.5 テクノロジー投資
- 2.2.1.6 テクノロジー戦略とイノベーション
- 2.2.1.7 ガバナンス、リスク、コンプライアンス
- 2.2.1.8 ビジネス・ビューとモデル
- 2.2.1.9 組織の変化をリードする
- 2.2.2 インフォメーション・アーキテクチャの専門領域**
- 2.2.2.1 データ統合
- 2.2.2.2 情報マネジメント
- 2.2.2.3 情報の価値
- 2.2.2.4 情報のガバナンスとマネジメント
- 2.2.2.5 情報のオペレーションズ
- 2.2.2.6 情報モデリング
- 2.2.2.7 ビジネス・インテジェンスとデータウェア・ハウジング
- 2.2.3 インフラストラクチャ・アーキテクチャの専門領域**
- 2.2.3.1 アクセスと認証マネジメント
- 2.2.3.2 キャパシティ・プランニング
- 2.2.3.3 共通アプリケーション・サービス
- 2.2.3.4 デバイス・マネジメント
- 2.2.3.5 インフラストラクチャ RAS
- 2.2.3.6 ネットワーク・デザイン
- 2.2.3.7 運用
- 2.2.3.8 システム管理とサービス
- 2.2.3.9 データセンター・デザイン
- 2.2.3.10 プロビジョニング
- 2.2.3.11 災害復旧とバックアップ
- 2.2.3.12 高可用性コンピューター環境
- 2.2.4 ソフトウェア・アーキテクチャの専門領域**
- 2.2.4.1 ソフトウェア・アーキテクチャの開発手法とプロセス
- 2.2.4.2 アーキテクトのためのソフトウェア・エンジニアリング
- 2.2.4.3 ソフトウェア・アーキテクチのツール
- 2.2.4.4 サービス、ワークフロー、メッセージング
- 2.2.4.5 高水準の品質属性

### **3. ITABoK セクション 2 – エンゲージメント・モデル**

- 3.1 ゴールとプリンシプル
- 3.2 スコープ、環境、ロール
- 3.3 ロールの記述
- 3.4 プロセスとライフサイクル
- 3.5 アーティファクトと成果物
- 3.6 アーキテクチャ・アセスメント
- 3.7 コア・エンゲージメント・モデル
- 3.7.1 Iasa コア・ライフサイクル
- 3.7.2 Iasa コア・ロール
- 3.7.3 Iasa コア・アーティファクト
- 3.7.4 Iasa コア・シナリオ

### **4. ITABoK セクション 3 – キャリア・マネジメント**

- 4.1 IT アーキテクトのキャリア・パス
- 4.2 職務記述書
- 用語集
- ITABoK コントリビューター
- 行動規範スタンダード
- End -